

インフラマネジメントの在り方（論点Ⅱ-1）

- 施設の規模・利用度に対するコストを踏まえて、施設自体や施設の形態をどうするかについて考える必要があるのではないか。
- 包括管理委託の導入も考えるられるのではないか。
- 施設の利用者・周辺の市場環境・類似サービスの提供者の有環境も確認したうえで、国立の施設としての意義を見直す必要がある。
- 現状のインフラマネジメントを行う職員体制では、適切なインフラマネジメントが行われているのだろうか。
- 施設の維持管理の体制を、事後保全から予防保全へ変えていかなければならないのではないか。
- 次回以降の検討会の議論の中で、国立青少年教育施設に対する民間活力の導入に関して、具体例が出ると良いのではないかと考える。
- 国立施設として提供すべきものはなにか、その施設は必要なのか、そこになければならないものか等、解像度を上げた議論が必要である。
- 維持管理のため利用料の値上げを行う場合、利用料増額による利用者数の減少も踏まえた検討が必要である。

その他

- 機構の新たな価値を、地域のステークホルダーと共創することが必要なのではないかと考える。
- 国立青少年教育施設のアイデンティティを変えていかなければならないと考える。
- マーケットイン、STPを踏まえたマーケティングの考えと、観光の視点を取り入れるべき。
- 一定の金額を支払うと複数施設を使えるような、サブスクリプション制度の導入も解決策の1つになるのではないかと考える。
- リピーターの獲得に向けた体制がソフト面で整っているのだろうか。